

日 時 平成21年11月29日午後2時 キックオフ（曇り）

会 場 綾町松原河川敷グラウンド

相 手 O K I

結 果 3 - 3 (0 - 3、3 - 0)

得点者 緒方、渡邊、藤田

内 容 有終の美を飾る。

レギュラー陣の大半が欠場する中、渡邊大介が今期、初めて出場した。

対象チーム（カントリー）が負け、フェニックスが強豪OKIに勝利するという厳しい条件下でのみ自動降格を逃れられる最終決戦であったが、悲しいことに前の試合でカントリーがラモーナに大勝（5 - 1）したことから、フェニックスの10位（自動降格）が決定してしまった。

ただ、メンバーのモチベーションは高く、何とか有終の美を飾ろうとする意欲が見て取れた。レギュラー陣の大半が欠場する中、渡邊大介が今期、初めて出場し、荻窪も初先発となった。

（前半）

急造布陣のためか、攻守布陣の連携がうまくいかず、中盤を制せられ、走り回る相手に右往左往してしまい、2分、10分とあっというまの2失点（0 - 2）。

そこで、藤田と久保を入れ替え、ボランチに藤田、左DFに久保として安定感を図ろうとしたものの、なすすべもなく23分過ぎに3点目を失い、どうすることも出来ない前半を終えた。

（後半）

一部での最後の試合を無様に終わりたくないとの気持ちが全員に伝わり、前線から思い切ったプレッシャーをかけ、勝負に出た。急造布陣にも慣れ、運動量が落ちないフェニックスは次第にポゼッション（ボール支配率）が高くなり、また、谷照大神（たにてらす おおみかみ）が再降臨し、第2のスーパーとして、縦横無尽に危機を救うカバープレーを連発。シニアとは思えない（？）牧の衰えないスタミナで広範囲をカバーする献身的なプレー。荻窪は、右サイドを駆け上がり、精度の高いセンタリングを上げまくる、、、

そして、10分過ぎ、相手ゴール前中央付近でFKのチャンスを得ると、緒方が、フェニックス史上初となるフリーキック直接シュートを相手ゴール右隅にたたき込んだ！（1 - 3）

その後も怒濤の攻め。14分過ぎには、右サイドからの武田のセンタリングを黒田がシュート、相手GKがはじいたところを、渡邊大介が1年ぶり（昨年のリーグ最終戦11月30日、ラモーナ戦以来）のゴールをたたき込む！

怒濤の攻めはまだまだ続き、数え切れないくらいのCKを緒方が上げ続け、相手ゴール

に襲いかかる。ただ、1点差のまま時間は過ぎていく。

その間、緒方の惜しいシュートや、赤野のジャストタイミングのヘディングシュートもあったが、相手守備陣の堅守に阻まれ、なかなか点が取れない。だんだんと、試合時間が少なくなってくる中、相手ゴール裏には元キャプテンの黒木が陣取り、怒濤のようにシュートを外す(?) フェニックス攻撃陣に少しでも攻撃時間を与えるため、ゴール裏で献身的なボール拾いに徹するという涙ぐましい動きがあったことは見逃せない。

そして、まさにタイムアップ寸前! 最後となる緒方のコーナーキックを藤田が見事なヘディングシュート! これが決まり、同点!!!!!! そして直後に試合終了のホイッスル! 何とも劇的な同点劇であった。

これで、3勝1分、勝ち点も10となり、胸を張って(?) 二部に行けます。また、レギュラー陣が不在でも一部上位のOKI(6位)に奮闘したチーム力は確かなものになり、来年の自信にもつながっていくものと思われまます。

参加者

<先発>

FW (渡邊、黒田)

MF (牧、久保、武田、荻窪)

DF (藤田、緒方、赤野、中園)

GK (谷之木)

監督等 日高、黒木、高妻